

東 浜



令和8年9月1日

通巻242号

発行

東京浜螺協同組合

<https://www.e-neji.org/>

東京都墨田区押上1-32-12

TEL. 03(3613)4141

ホームページでも
ご覧いただけます

『スペーシアX』

撮影日

2026年5月17日

墨田支部旅行会にて

撮 影 者

墨田支部

マハナネジ株式会社

真嶺 耕治 氏

目 次

巻頭言	副理事長 竹内 則康	2
日本ねじ商連 第五十一期通常総会報告		2
委員会だより		4
流通経営委員会		4
福利厚生委員会		5
丸山顧問100歳記念の特別寄稿	大野 裕幸	6
支部だより		7
昌栄支部×中央支部 合同例会	昌栄支部	7
城南支部旅行「千ペロというか、ペロペロ」	城南支部	8
墨田支部旅行記	墨田支部	10
伝統の味を囲み、神田で紡ぐ未来と秋への会話	千神螺支部	11
昌栄青和会だより	杉山 真一	12
六十周年記念旅行記		
泰鋌会だより	北村 岳	15
泰鋌会家族会・勉強会		
新社長紹介		
墨水支部	(有)松原工業所 松原 拓哉	16
シリーズ「私の逸品」(株)ハセガワ	長谷川 俊樹	17
情報室	双信工業(株) 水田 三喜男	18
組合の会議		
訃報		20
東浜ゴルフ会報告		20
表紙の言葉	マハナネジ(株) 真嶺 耕治	20

巻頭言

スポーツ観ていますか

副理事長 竹内 則 康



この原稿を書いている最中にサッカーワールドカップが閉幕した。小さいころから四年に一度、にわかサッカーファンになるのだが、今回の大会はこれまでの中でも最高に面白かったと思う。三位決定戦と決勝戦を続けざまに観たが、あまりの試合展開の違いに、同じサッカーの試合なのか、目指すところが違うとモチベーションも大きく変わるためなのか、などと思いを巡らせた。

日本は確かに強くなっているけれど、他国も進歩しているのだろう。その先に進んだチームとはまだ差があると感じた。とはいえ、当たり前のように決勝トーナメントに勝ち進む日本は強豪国の一つであり、いずれ目指す天辺に近づくのだろう。

夏の甲子園予選が始まっている。この冊子が発行される頃には今年の甲子園優勝校が決まっているはずだ。今や地方大会もテレビ放映するし、ネットですべて試合みられる。日本人は高校野球が本当に好きなのだと感心する。野球といえば、大阪鯉魚卸商協同組合では、野球大会を七十年以上も継続している。私たちの組合でもその昔は野球大会があったと記憶している。弊社の先々代は大の阪神ファンだったので、当然ながらユニフォームは縦縞だった。(大鉦協のチームはやはり縦縞が主流なのだろうか?)ただ、東京の場合は試合会場や練習場所の確保が難しかったり、会社ごとに人数を揃えることに無理があったりなどの理由で中止になったと聞いている。今も続けている大鉦協さんの熱意と努力には感服だ。

サッカーや野球はもとより、これから秋になりいよいよ本格的なスポーツシーズンに入る。どんな感動や物語を与えてくれるのか楽しみにしている。

日本ねじ商連 第五十一期通常総会報告

去る七月二十四日、神鉦協の協力により日本ねじ商連第五十一期通常総会が開催され(参加人数…4組合員+事務局合計15名)、別記のとおり七号議案まですべて可決承認されました。

◆開催日 令和八年七月二十四日(金)
◆場所 新横浜プリンスホテル
◆議案

- 一号議案 令和七年度 事業報告承認の件
- 二号議案 令和七年度 決算報告承認の件
- 三号議案 令和七年度 剰余金処分案承認の件
- 四号議案 令和八年度 事業計画承認の件
- 五号議案 令和八年度 収支予算承認の件
- 六号議案 令和八年度 経費の賦課金額及びその徴収方法決定の件
- 七号議案 役員報酬決定の件



一同揃って



総会の様子



日本ねじ商連会長 青木宏志氏

委員会だより



流通経営委員会

流通経営委員会セミナー報告

流通経営委員長 (株) 鎮定本店 金 枝 総 吉

5月28日、当会では真田幸光氏をお招きし、「第二期トランプ政権二年目は混沌の始まり」をテーマにセミナーを開催した。毎回大好評を博している真田氏の登壇は、今回で4回目を数える。

ロシア・ウクライナ戦争に続き、今年はアメリカとイランとの紛争も勃発するなど、世界情勢は現在も混沌を極めていく。その中、今後の行方が注視される国際社会の動向について、真田氏にはアメリカ・トランプ大統領の思考や戦略を中心に解説いただいた。

トランプ氏は「Make America Great Again (MAGA)」のスローガンのもと、再び唯一無二の覇権国家を目指している。冷戦終結後、一時はアメリカの一極支配と思われたが、テロとの戦い、BRICSの台頭、リーマンショック



を経て、現在は米中二大国が覇権を争う時代となった。ここで再びアメリカが「America First (強いアメリカ)」を完全に確立するため、トランプ氏は壮大な地政学戦略を描いている。一見するとその言動は思いつきや行き当たりばったりの行動に見えるが、実は就任当初から変わらない、極めて一貫した行動理念に基づいているのがトランプ氏の本質である。

その戦略とは、第一に反米・親中派のベネズエラ大統領の拘束や石油利権の掌握、ロシアを想定したグリーンランドの買収による「南北アメリカ大陸の支配と中露の影響力排除」である。第二に、アメリカ西海岸から第一列島線に至る「西半球の支配」。そして最終的には「地球全体の支配」を目指すというものだ。

戦略通りに進むかに見えたトランプ氏の覇権シナリオだが、誤算となつたのがイランへの対応である。イラン国内の反体制派による政権打倒を期待し、短期決戦での勝利を目論んで強硬姿勢に出たものの、その目論見は外れた。結果として、ウクライナ紛争によるインフレに原油高が追い打ちをかける形となり、このままでは今年秋に控えるアメリカの中間選挙でトランプ政権は苦戦を強いられることになる。米国は少しでも有利な条件での停戦合意を模索しているが、足元を見透かすイランも強気な姿勢を崩しておらず、情勢は混沌している。ただし、イランも経済的困窮に直面しており、今後の国際社会の圧力次第では、いずれ妥協点を見出していく可能性もある。

日本に目を向けると、現在の政権・日銀の政策はリフレ派の傾向が強い。世界的なインフレの嵐が吹き荒れる中、日本だけがリフレ政策を突き進めれば、一段と円安が進行し、もしアメリカに為替操作国と見なされれば日本経済全体にとっては極めて不利な状況を招きかねないという警告している。

国際情勢の荒波と米中覇権争いの行方は、我々のビジネスや日本の経済基盤に直結する問題である。トランプ政権の次なる一手が世界にどのような結果をもたらすのか。私たちは常に地政学的な視点を持ち、多角的な情報収集と、激変するリスクに対する備えを怠ってはならない。そう強く再認識させられる、極めて示唆に富んだ有意義なセミナーとなった。

福利厚生委員会

●支部対抗ボウリング大会

開催日 10月24日(土) 午後4時30分より
場所 品川プリンスホテル「ボウリングセンター」
人数 各支部(1レーン)4名
会費 1名 6千円
懇親会 品川大飯店 午後6時より

※懇親会のみ出席者は実費負担あり



●劇団四季ミュージカル

「アナと雪の女王」の鑑賞(S席鑑賞券)

実施日 11月7日(土) 12時30分より開演の部
会場 野村證券ミュージカルシアター
J R 東日本四季劇場「春」(浜松町・竹芝)
会費 1名 7千円(組合補助後の金額)
定員 100名(1社2名、追加募集となった場合は4名)
案内 8月下旬予定



丸山顧問

一〇〇歳記念の特別寄稿

百寿のお祝い

山之手支部 丸山螺旋鋌(株) 大野 裕 幸

丸山螺旋鋌(株) 会長、丸山正昭は、このたびめでたく百寿を迎えました。本来であれば百寿を迎えた本人が皆様へご挨拶申し上げるところですが、今回は甥である私、大野裕幸(丸山螺旋鋌(株) 社長)が代わって「百寿のお祝い」として寄稿いたします。

丸山正昭は1926年(大正15年) 2月15日、創業者・丸山喜四郎、ムメ夫妻の長男として東京市芝区(現東京都港区)に生まれ、今年2026年に満100歳となりました。正昭の妹が私の母で、昭和7年生まれの94歳、兄妹そろって長寿です。母の母、すなわち私の祖母・ムメも99歳まで元気に過ごしましたので、丸山家には長寿のDNAが受け継がれているようです。

10年ほど前までは元気に働いていましたが、腰椎の圧迫骨折をきっかけに一人暮らしが難しくなり、2019年2月から世田谷区の介護付き老人ホームに入居しています。入居から7年が経ち、現在ではホームで暮らす男性の最高齢となりました。おかげさまで大きな病気もなく、本人は「三食昼寝付きでいい暮らしだ」と笑いながら、穏やかな毎日を過ごしています。



1966年 丸山40歳 大野4歳

丸山は、祖父・喜四郎が1934年(昭和9年)に開業したねじ販売店を戦後に発展させ、1956年(昭和31年)の丸山螺旋鋌(株) 設立以来、長年にわたり会社経営に携わってまいりました。また、その傍ら東京鋌螺旋協同組合の運営にも尽力し、1989年(平成元年)から1992年(平成4年)まで理事長を務め、現在も顧問として組合に名を連ねています。

6月7日には、山之手支部からのお祝いとして支部長の渡瀬さんがホームまでお越しくださり、美しいお花を頂戴いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

伯父は大正・昭和・平成・令和と四つの時代を生き延びました。改めて、100年という年月の長さを実感します。「人生100年時代」と言われるようになりましたが、実際に100歳を迎えた身内がいることは、そう多くあることではありません。面会に行くたびに、100歳の伯父から「元気か?」と声を掛けられます。その一言に、私のほうが元気をもらっています。

伯父さん、これからもどうか元気で、穏やかな毎日を過ごしてください。



支部だより

昌栄支部×中央支部 合同例会

— 昌栄支部 —

6月26日、台風7号・8号が同時に接近するという緊迫した空模様の中、昌栄支部×中央支部合同例会が開催されました。あいにくの悪天候となりましたが、会場となった有楽町の創作料理店「綴(つづり)」には、そんな嵐を吹き飛ばすように総勢25名の会員が集結しました。事務局長の面木氏と前事務局長の大足氏にも参加いただきました。

会場の「綴」は都会の喧騒を忘れさせるラグジュアリーな空間が魅力のお店です。一歩足を踏み入れると、外の雨が嘘のような静寂と、温かみのある照明が心地よく広がり、上質な落ち着きが漂っていました。定刻となり、昌栄支部の山本氏による軽妙かつスムーズな司会進行で例会が幕を開けました。まず開会の挨拶として、昌栄支部の丸岡副支部長が登壇。悪天候の中集まったメンバーへの感謝と、両支部の交流への期待が述べられました。続く支部

長挨拶では、中央支部の小口支部長、そして昌栄支部の今西支部長がそれぞれ近況報告や支部間の絆を深めることの重要性を熱く語られました。

そして、新保理事長による力強い発



声で乾杯が執り行われ、宴の席へと移りました。運ばれてくる料理はどれも目に鮮やかで、「綴」ならではの四季折々の旬を活かした繊細な料理の数々が参加者の目と舌を楽しませてくれました。洗練された器に美しく盛り付けられた料理と美味しいお酒が、さらに会話を弾ませる潤滑油となります。

外の雨模様とは対照的に、会場内は終始、熱気と笑顔に包まれた和やかな雰囲気が続きました。当日の朝に行われたワールドカップ「日本×スウェーデン」の話題が多かったのではないのでしょうか。宴もたけなわとなった頃、今西顧問による中締めが行われ、これまでの歩みを振り返りつつ、組合のさらなる発展を祈念する言葉が送られました。

最後に、昌栄支部の篠田副支部長による閉会の挨拶と二丁締めをもって、盛況のうちに合同例会は幕を閉じました。悪条件をものともせず、両支部の結束と親睦をいっそう深めることができた、大変実り多き一夜となりました。



城南支部旅行

「千ペロというか、ペロペロ」

— 城南支部 —



六月十三日から一泊で梅雨真っただ中の沖縄本島に行ってきました。総勢九名と少し寂しい人数でしたが雨をぶっ飛ばして楽しんできました。

早朝七時、羽田空港に誰一人遅刻することなく集合し出発。那覇到着後すぐに昼食で定番の「88ステーキ」で200gのステーキを平らげ上々のスタート。その後、自由に国際通りを「沖縄そば」を食べるチーム、「千ペロ街」に行きハブ酒を飲むチームなどに分かれ楽しめました。バス車内にもお酒を持ち込み「機嫌」(CAVE OKINAWA)を訪問しました。鍾乳洞の規模としては小さいのですが電飾を使い新しい感じの鍾乳洞でした。鍾乳石より垂れた水滴を浴びながらも予想以上に楽しめました。かなり急な坂道を上り下りしたので足がパンパンになってしまいました。それ以上に「千ペロ」前からペロペロだったメンバーが完全ペロペロで足取りもおぼつかない状況になりました。当支部はスパルタなので誰も手を貸すこともなく自力で歩いてもらいました。(笑)

更に車内で飲み続けて道の駅にも寄った後に「ザ・ムーンビーチミュージアム」ホテルに到着しました。

宴会は「あぐー豚しゃぶしゃぶ専門店 オーシャンBOO」でした。先日亡くなられた、三綾商会、色川社長に黙祷を捧げ献杯をした後に、改めて乾杯もして宴会を開始しました。たらふく食い、大いに飲み楽しい時間を過ごしました。なぜかその頃よりペロペロ氏は生き返ってきました。目に生気が戻っています。恐ろしい話です。近所で二次会に行き、珍しいオレンジ色のワインを二本空け、小雨の中、元気にホテルに戻りました。そうすると、ペロペロが増殖です。「やつぱりビーチで飲みたいよねえ!」と大きな声で楽しそうに話していました。大の大



人が恐ろしい話でした。そして、解散しました。

私が自室に戻り横になると、ドアをノックする音がしました。ベロベロ三人衆です。バスより降ろし冷蔵庫に冷やしてあるアルコールの香りを嗅ぎつけての襲来でした。「この部屋で飲みたーい！」意味不明な事を口走りソファに座ることもなく私の部屋で立ち飲みしていました。最後は更に一人増殖して一時間以上騒ぎ続けて冷蔵庫のお酒が無くなると帰ってくれました。恐ろしい話です。

翌朝の朝食時ベロベロ

氏の目は死んでいました。しかし、手にはスパークリングワインを持っていました。恐ろしい話です。

二日目は「青の洞窟シュノーケリング」と「泡盛工場見学&ガラスコップ製作体験」に分かれて始動です。朝からドン曇りでしたが、奇跡的にお日様が短時間顔を出してくれたおかげで太陽光が海中で反射して生み出す「神秘的な青い光景」をシュノーケリングでは楽しめたようです。ガラスコップ製作の五人組にベロベロ氏はいました。時折、姿を消してコマセを撒きにトイレに籠城していました。ガラス吹きが厳しいかと思いい験中止を促すも一番大きなジョッキグラスを発注して嬉しそうに笑顔で吹いていました。そして体験後はまた目が死んでいました。恐ろしい話です。

昼食は「嘉手納シーサイド」で、ステーキやバーガーをビールと共に美



ベロベロ氏のたまの休息

味しくいただきました。ベロベロ氏も大きなステーキを何度もトイレに行きながらお酒も飲みつつ完食していました。恐ろしい執念です。

最後に今秋には復元予定の首里城見学の予定でしたが、遂に梅雨らしくどしゃ降りになってしまい観光を諦めて敷地内のレストランで休憩しました。そこでもベロベロ氏はすっかりビールセットをオーダーしていました。恐ろしい話です。

その後、空港に向かい小杉支部長が体調を崩し青白い顔をして飛行機に乗れないかと心配しましたが無事に全員帰京しました。とても楽しい二日間でした。

最終的にベロベロ氏は言葉数も減り返事もなくなりました。おそらく、沖縄に行った支部旅行の記憶は全くないでしょう。そして後日届くジョッキを「ん？このジョッキどうしたんだっけ？」恐ろしい話です。

(株) 中村商会 中村勝士



墨田支部旅行記

— 墨田支部 —

墨田支部は5月16(土)・17(日)にかけて参加者8名で日光、鬼怒川方面を訪れました。今回の旅行の大きな目的の一つはスピーシアXへの乗車で、行きはコクピットラウンジに乗り、快適に車中を過ごして、あつという間に日光鬼怒川駅へ到着。その後、世界遺産の日光東照宮を見学。日本の伝統文化の素晴らしさを改めて感じる機会となりました。

昼食は、歴史と伝統を誇る日光金谷ホテルにて名物の100年ライスカレーランチをいただきました。長年受け継がれてきたレシピをもとに作られたカレーは、とても味わい深かったです。

昼食後、奥日光を代表する景勝地である中禅寺湖を訪れ、湖上クルージングを楽しみました。男体山をはじめとする雄大な山々に囲まれた湖面は穏やかで船上から眺める景色はまさに絶景でした。続いて訪れたのは、日本三名瀑の一つとして知られる華嚴の滝。今回は水量がやや少なめではあったものの、滝の美しさは十分に味わえました。

夕刻には、宿泊先の鬼怒川温泉ホテルへ到着。美味しい料理、ホテル自慢の温泉で、旅の疲れを癒した夜となりました。

旅の二日目はホテルで朝食ビュッフェをすませて、鬼怒川ロープウェイを訪れ、鬼怒川の自然を満喫し、その後一行は鬼怒川



ライン下りを体験。鬼怒川渓谷をゆったりと下る約40分の船旅を楽しみました。

それから下今市まで移動し、老舗中国料理店の山泉楼本店にて昼食をいただきました。地元で親しまれている本格中華料理店で、ボリウム満点で皆満足といった様子で和気あいあい語りながら食事を楽しみました。

昼食後は帰路につくため下今市駅へ向かい、帰日もスピーシアX(帰りはプレミアムシート)に乗り、快適な社内で、旅の疲れからか皆すつかり眠ってしまったみたいです。

今回の親睦旅行会は、スピーシアXで始まり、スピーシアXで締めくくられた思い出深い二日間となりました。おかげさまで二日間とも晴天に恵まれ、歴史と文化に触れ、雄大な自然を満喫し、仲間との親睦を深めることが出来た素晴らしい旅行会になったと思います。最後に真嶺幹事のご尽力に深く感謝いたします。

(株)テックゴセキ 吉田 等



伝統の味を囲み、

神田で紡ぐ未来と秋への会話

— 千神螺支部 —

7月8日(水)、神田の地に暖簾を掲げる明治三十年創業の老舗鰻専門店「うなぎ久保田」にて、恒例の納涼会が開催されました。今回は三月の定例会以来の集まりということもあり、開宴前から誰もがこの日を心待ちにしておりまし

た。歴史を感じさせる落ち着いた店内に足を踏み入れると、香ばしい蒲焼の香りが漂い、一気に期待が高まります。冷えたビールで久しぶりの再会を祝して乾杯した後は、外は香ばしく中はふつくと柔らかな極上の鰻に一同舌鼓を打ちました。宴が始まると、お座敷のあちこちから活気ある声が響き



渡ります。最初はそれぞれの近況を兼ねて仕事の話題から始まりました。特に最近のビジネスシーンで欠かせない「AIの活用」など最新のトレンドに話が及ぶと、それぞれの現場での導入事例や今後の展望について熱い意見交換が交わされ、互いに大いに刺激を受ける有意義な時間となりました。しかし、お酒が進み老舗の味に心も解れると、話題は次第に和やかなプライベートへと移っていきます。

特に大きな盛り上がりを見せたのは、次回に予定している「旅行会」の計画についてです。今回は十二月に開催が決定した「広島」の話題で持ちきりとなり、「厳島神社の美しい大鳥居は外せない」「歴史を肌で感じる原爆ドームにも足を運ぼう」「本場の広島風お好み焼きや牡蠣も楽しみだ」など、銘々が楽しげにアイデアを出し合い、笑顔と笑い声が絶えません。未来の技術を語り合った後に、歴史ある地への旅路に思いを馳せる、非常に深みのある会話となりました。

老舗ならではの寛ぎの空間も手伝って、宴は終始和気あいあいとした温かい雰囲気包まれていました。日頃の忙しさや夏の疲れを完全に吹き飛ばしてくれる、まさに至福の楽しい宴となりました。

数ヶ月ぶりに顔を合わせ、膝を突き合わせて語り合うことの価値を改めて実感した素晴らしい一晩となりました。

(株)大里 西川佳典

昌栄青和会だより

六十周年記念旅行記

昌栄青和会 会長 (株) 杉山商店 杉 山 真 一



突然ではございますが五月十六日は何の日か、ご存じでしょうか？

五月十六日は「旅の日」と日本旅のペングラフィが制定し、松尾芭蕉が奥の細道の旅に出発したことが由来であるそうです。

我々、昌栄青和会は「旅の日」を含む五月十五日から十七日に六十周年記念旅行を行いました。

今回の周年旅行は日頃からお世話になっております親会の銚螺昌栄会へ少しでも恩返しが出来よう、昌栄支部の研修旅行と日程を合わせ合同での旅行会とし、行先は以前から定例会などで候補に挙がっておりました出雲大社方面へととなりました。

毎度の事ではございますが参加者全員が本来の集合時間より早く空港に集合し(ゼロ)次会が開かれ、私は離着陸する飛行機をつまみに乾杯、ほろ酔いで気持ちよく搭乗して鳥取空港に向かうのでありました。そうして幕を開けた旅行会ですが、色々な観光スポットにも寄らせていただきましたので、道中をご紹介しますいただきます。

鳥取空港(鳥取砂丘コナン空港)

まず降り立ったのが、鳥取空港。鳥取県出身の漫画家青山剛昌の代表作「名探偵コナン」のトリックアートやグッズショップ、主要キャラクターの等身大フィギュアなど「名探偵コナン」に関する装飾に溢れており

ました。

若い女性ファンが多い作品の為か、女性グループの観光客が多く見受けられ、ご家族に限定グッズのお土産を頼まれた参加者がスマホ片手に物色する姿もありました。

砂の美術館砂丘センター(鳥取砂丘)

砂を素材にした砂像を専門に展示する世界初の屋内型砂像美術館です。毎年テーマを変えながら「砂で世界旅行」をコンセプトにしており、今年度のテーマは「情熱の国・スペイン」。アントニ・ガウディのサグラダ・ファミリアの砂像を中心にスペインに関する展示がされておりました。

展示室に入ると想像以上の大きさ、展示量に圧倒されました。大きさだけでなく細部まで繊細にこだわりの感じられる作品群は展示が終ると崩れてしまう為、その儚さを含め心に残るスポットでした。

美術館を後にした一行は鳥取砂丘へ。

滞在時間はわずかでしたが風景を楽しみ、ラクダに乗り写真を撮る参加者もありました。

砂像でも使われていた鳥取砂丘の砂はパウダースノーの様にさらさらで、きつと今でもスニーカーの中に入り込んでいる事でしょう。笑

はわい温泉 望湖楼

日本海にも近い東郷湖の湖畔に建つこちらの旅館が初日の宿泊先でした。

鳥取空港の紹介でも触れた「名探偵コナン」の作品内でもモデルとなり登場しております。(宿泊中、作中のような事件は起こりませんでした。笑)

客室・宴会会場の窓からは二面に東郷湖をレイクビュー、湖上に浮かぶ湖上露店風呂が名物となっております。

宴会では金森正登志氏(銚螺昌栄会相談役・昌南工業(株))に乾杯の

ご発声をいただき、鳥取和牛などの地産品を中心としたお料理にお酒が進みます。

「〜だけえ」と鳥取弁を使うコンパニオンの方とお話ししていると、日常を離れて遠くに来ている事を実感し、楽しい時間を過ごせました。山田茂始氏（銚螺昌栄会相談役・（株）サンユーネジ）に中締めのご挨拶をいただき初日の宴会はお開きとなりました。

足立美術館

二日目、最初に訪れた足立美術館は枯山水庭や白砂青松庭など約5万坪の広大な庭園と、横山大観や北大路魯山人などの作品を常設展示しております。

参加者の中でも足立美術館を旅行の目玉にしていた方も多く、私自身もYOUTUBEで下調べをしてから伺いました。

限られた時間の中で各々、喫茶店や茶室からゆっくり庭園を眺める方、館内を二通り回られる方、足早にグッズショップに向かう私、それぞれのスタイルで楽しまれました。

松江城（松江堀川遊覧船）

境港で昼食をとり、車のコマーシャルで有名になった「ベタ踏み坂」を通りまして、次なるスポット松江城へ。NHKの朝ドラ「ばけげ」の舞台ということもあり大変賑わっておりました。

まずは船でお堀を散策、低い橋の下をくぐるのに屋根が上下する遊覧船に乗り、風景を楽しみつつ背中を屈んだり戻ったりとデイズニードのジャングルクルーズ顔負けのアトラクションを楽しみました。

遊覧の後、高台の本丸へ向かい城下に広がる松江の景色を楽しみました。

玉造温泉 ホテル玉泉

二日目は出雲大社のお膝元、玉造温泉「ホテル玉泉」に宿泊。玉湯川に沿って旅館が並ぶ景色は少しレトロで落ち着いた、気持ちの良い雰囲気でした。

用意していた両会の会旗を設営し、二日目の宴会へ。

今西崇之支部長（有）今西工業所）に代表してご挨拶をいただき、丸岡誉俊副支部長（松本銚螺）の乾杯のご発声で宴会がスタート。

観光を丸一日楽しみ疲れた体を潤す地酒の数々、東出雲ポークのしゃぶしゃぶや、鳥根和牛のステーキなどの地産の美味しいお料理で英気を養い、旅行の振り返りや、青和会六十年の中での思い出話などで大変盛り上がり、あつという間に時間が過ぎるのでした。

篠田善明副支部長（有）日進銚螺）に中締めのご挨拶をいただき、ホテル内のカラオケルームで延長戦となりました。

五月でお誕生日を迎える金森正登志氏と平渡芳嗣氏（株）平渡商店）へ、ケーキを準備してサプライズのお祝い、宴会から引き続き楽しく過ごせた



二次会の後、夜食のラーメンを啜ったり、各々のスタイルで夜を締め括りました。

出雲大社

最終日、今回の旅行会のメインでもあります出雲大社へ。初めての方も、久しぶりの方も、やはり神楽殿の大きなしめ縄には圧倒されている様子でした。

参加者全員で本参拝を行い、鉾・昌栄会・昌栄青和会、及び各参加者(各社)のさらなる発展を祈念いたしました。代表して玉串を捧げる役目を受けた私自身も出雲大社特有の二礼四拍手一礼を用いて、無事役目を務めました。

朝一番で参拝をしている事もあり人出も少なく、ガイドの方の丁寧な進行の下でゆっくりと参拝する事が出来ました。

今回、出雲大社に参拝する事もあり、六十周年の記念としてオリジナルのご朱印帳を用意、参加者全員分のご朱印をいただき、皆さまへお渡しすることが出来ました。



水木しげるロード

出雲大社を後にして、飛行機の時間までは水木しげるロードの散策へ。

代表作「ゲゲゲの鬼太郎」を中心に道路沿いに百七十八体の妖怪ブロンズ像が並んでおります。

最近、個人的に手拭いを使う(集める)ことが多く、目玉のおやじなどのイラストを用いた手拭いを複数購入、皆さま色んな鬼太郎グッズに手が伸びている様でした。(お財布の紐が緩くなるのは、きっと妖怪の仕業です。笑)

こちらのスポットを最後に米子空港へ向かい帰路に立つのでした。

二泊三日の旅行会でしたが全日程を通して天気にも恵まれ、大きなトラブルもなく、みっちりとお楽しみ事が出来ました。これもひとえに企画・進行に尽力いただいた昌栄会・青和会の両幹事、道中スムーズな支払い・清算のご対応いただいた両会計、そして道中共にしていただいた十八名の参加者皆さまのおかげです。

六十周年という節目を新たな出発点とし、会員相互の絆をより深めながら、先人の皆様が築いてこられた伝統と志を次の世代へとつないでまいります。

関係各位のご厚意に深く感謝申し上げます、本旅行記の結びといたします。

泰鉦会だより

泰鉦会家族会・勉強会

泰鉦会 代表幹事 (株)北村ポールト 北村 岳



(株)北村ポールト 北村と申します。
この度、泰鉦会家族会・勉強会の寄稿をさせて頂きます。筆不精ではありますがご容赦下さい。

今回の活動では、防災についての勉強会と家族の懇親を深める家族会という2つのテーマで行われました。

まず、勉強会については港区にある東京臨海広域防災公園内の(そなエリア東京)にて、東京直下型大地震が実際に起きた時にどのような生き延びるかという体験をさせて頂きました。

偶然にもこの勉強会の数日前に関東地方では、震度5の地震があり緊急地震速報も鳴り家族で慌てたばかりでしたので、私も家族もより真剣に学ぶことが出来ました。

体験の中では、実際に大地震が起きた場合は国や都の支援が来るまで最低3日間は、個人で生き延びなければならないようです。

その為に必要な備蓄の準備、避難場所、家族、大切な人との連絡手段など様々なことを教えて頂きました。

突然ですが問題です。皆さんは災害用伝言ダイヤルの番号はご存知でしょうか?正直私は知りませんでした。(正解は1771です。)

防災に関することは、なかなか忙しい日常の中では後回しにされがちですが、皆さんも1年に1日くらいは家族や職場の皆さんと防災に関することを考える日を作ってはいかがでしょうか?

勉強会の後は、近くにある昼食会場で各ご家族、会員同士で懇親

を深めさせて頂きました。

普段とは違う会員の方々の顔が見られるのも家族会の面白さでもあり、各ご家族にとっても泰鉦会の活動や会員の方々を知って頂くことは安心に繋がると思いました。

最後に今回、このような貴重な勉強会・家族会の機会を与えて下さった幹事の皆様ありがとうございました。



新社長紹介

◇墨水支部

有限会社松原工業所

代表取締役社長 松 原 拓 哉 氏



令和 8 年 4 月より有限会社松原工業所代表取締役に就任いたしました、松原拓哉と申します。

東京鋌螺協同組合(以下東鋌協)の皆様方におかれましては、前社長(現会長)松原秀雄と共に、公私にわたり広くご支援、交流を深めていただいたこと、本紙面にて感謝申し上げます。

さて、簡単に弊社の来歴を振り返りますと、昭和 4 年(1929 年)4 月に曾祖父松原茂雄が松原茂雄商店の名で創業し、昭和 22 年(1947 年)現社名となり、祖父 慎治、父 秀雄と続き、私で 4 代目となりました。

このような簡単な来歴ですが、戦前の資料・情報は戦災の影響で弊社にも役所にも残っておらず、私が入社した当時、誰も正確な創業年を覚えておりませんでした。社長就任を機に、弊社に残る東鋌協の周年記念誌の整理を行ったところ、創立 25 年の記念誌に若き祖父の写真と共に創業年が記載されており、皆様にご紹介できた次第です。

これだけでも弊社と東鋌協のつながり、これまで歩んできた歴史の重みを実感し、身が引き締まる思いであります。それ以上に、弊社を支えて下さったお客様、協力企業様、従業員をはじめとした多くの皆さまへの感謝と敬意を胸に、3 年後に迫る創業 100 年に向けて、引き継いだバトンを握りしめ、力強く歩みを進めて参る所存です。

100 年前はもちろんのこと 10 年前でも考えられないことが日々起こ

る、潮流の変化が激しい時代と感じております。この波に取り残されぬよう、デジタル分野等最先端の知識・見識を取り入れつつ、これまで培ってきた技術・経験と、何より積み重ねてきた信頼を大切に、承前啓後の精神で社業の発展に尽力いたします。

責任ある立場となりましたが、まだまだ修行中の身であると心得ております。諸先輩方にはこれまで同様、温かいご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



私の逸品

リコーGRⅢ

千神螺支部 (株)ハセガワ 長谷川 俊樹

私の逸品という事で、今回は趣味の写真の世界から、頼りになる愛機リコー社のGRⅢをご紹介します。

GRⅢは、2019年に発売された単焦点コンパクトデジタルカメラです。

現在は後継機のGRⅣが人気を博しています。

私はこのカメラを手にする以前は、フルサイズの一眼レフカメラを使用していましたが、購入以降はこのカメラしか使っていません。

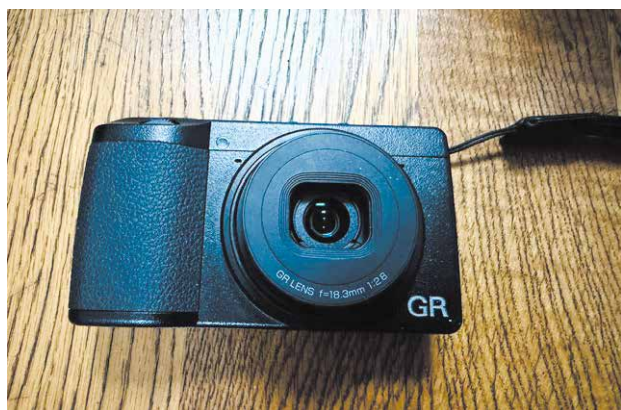
何故に一眼レフを凌いだのか？

このGRⅢは、手のひらサイズの僅か250グラム。それでいて作品撮りにも十分対応してくれる描写力と表現力を備えています。またデザインもシンプルで美しいです。

更に強力なセールスポイントとして、スイッチオンから撮影までの起動時間が僅か約1秒とスピードも兼備しています。

『上手い』『軽い』『速い』と三拍子揃った凄いヤツなのです。

私はグルーブ展示や個展といった写真の作品展示を趣味で行っていますが、GRⅢは毎回作品撮



りに使用している頼れる相棒です。

作品は街角スナップ、風景、人物まで幅広いのですが、どれも高いレベルで打ち返してくれます。

撮影の際に際立つのがそのサイズです。手のひらサイズは人目につかず、集中かつ安心して撮影に臨めるのです。このメリットは長年写真を撮ってきた自分にとって、とても大きな転機になりました。

いつでもどこでも爆速で撮れる利便性の高さは、カメラマンにとって大きなアドバンテージになります。操作系もシンプルで初心者からヘビーユーザーまで使う側を選びません。

フィルムカメラ時代から現在までシリーズ化され、進化を遂げてきたGRシリーズ。私のお薦めの逸品です。



情報室

応援すること、応援されること

広報委員 双信工業(株) 水田 三喜男氏

今年のサッカー北中米ワールドカップでは日本代表の活躍に日本中が熱くなりました。日本時間で早朝や深夜の試合もございましたがテレビの前で応援した方も多かったのではないのでしょうか。決勝トーナメン



ト一回戦でブラジルに惜敗しましたが、最後まで諦めずに戦い抜く選手たちの姿は、多くの人に勇気や感動を与えてくれました。スポーツには、人を夢中にさせる力があります。そして、その舞台には必ず「応援」があります。

先日、娘と一緒に「第21回大磯ロングビーチ・湘南ファミリートライアスロン大会」に参加しました。

この大会は、一般の部から未就学児まで幅広い世代が参加できるトライアスロン大会です。当時娘は11ヶ月で「ちびっこファミリー」の部に出場しました。スイムは保護者が抱っこして泳いでも、浮き輪を使っても構いません。バイクは動力のない乗り物であれば参加できるという、親子で楽しめるルールです。

参加する子どもたちはストライダーに乗っている子が多い印象でしたが、まだ立つことも歩くこともできない我が家を選んだのは、普段から娘が気に入って乗っている「アンパンマン号」。スタート時間がお昼頃とあったこともあり直前になって娘はまさかのお昼寝…。スイム15メートルは抱っこしての寝ながらのスイムとなりました。スイムアップする頃には少し目を覚まし、バイクでは何とかアンパンマン号に乗って150メートル。ランは抱っこして50メートルと、ほぼ父の動力でしたが、無事ゴールすることができました。周りの方からも温かい応援をいただき、家族みんなで笑い合っているゴールした、忘れられない娘の初レースになりました。

一方で、私自身はここ数年、けがや体調不良の影響で、マラソンやウルトラマラソン、トレイルランニングのレースから遠ざかっていました。そのため、大会特有の雰囲気に触れるのも久しぶりでした。

勝ちたい、楽しみたい、それぞれの思いを持ちスタートを待つ選手たち。懸命に声援を送る家族や仲間。そして、見ず知らずの選手にも惜しみなく拍手や声援を送るボランティアや観客。その光景を見ながら、改めて「応援すること」と「応援されること」の大切さを感じました。

私が水戸黄門漫遊マラソンに出場したときは、20キロくらいまでは快調でしたが練習不足もあり徐々に足が重くなり後半は歩いているか走っているかわからない状態。そんな中、ゴールまであとわずかな40キ

口を過ぎてトンネルへ入ると、そこには、トンネルいっぽいに響く音楽と、ボランティアの皆さんの力強い声援がありました。その瞬間、それまで動かなくなっていた脚が、もう一度前へ動き始めたのです。

体力が回復したわけではありません。それでも、人からの応援には、自分でも気付いていない力を引き出してくれる不思議な力があることを、マラソンを始めてから知りました。

応援は、沿道の観客やボランティアから送られるものだけではなく、

白馬のトレイルランニングレースを走った時には、夏のスキー場のゲレンデをひたすら登るコースがありました。冬ならリフトで上るような急斜面を、自分の脚だけで登っていきます。白馬とはいえ近年の夏はとても暑く、本当に苦しく、一歩一歩前へ進むだけで精いっぱいでした。そんな時、近くを走る人から「きついですね、お互い頑張りましょう!」とか、折り返して下ってくる人からは「あと少しですよファイト!」と声が掛かります。こちらでも自然と「ファイト!」と返します。

お互いに同じレースで同じように苦しみながら、それでもゴールを目指している仲間です。たった一言ですが、その一言で「もう少し頑張ろう!」と思え、また一歩前へ進むことができます。

応援されることで、私自身の応援に対する考え方も少しずつ変わっていききました。以前の私は、「応援する」とは「頑張れ」と声を掛けることだと思っていました。私はプロ野球では横浜DeNAベイスターズのファンです。小学生の頃、大洋ホエールズ時代から応援しています。勝てばうれしく、負ければ悔しい。選手や監督になったような気持ちで応援してきました。しかし、自分が応援される立場になって初めて、その応援がどれほど人を前へ進ませる力になるのかを知りました。

それ以来、マラソン大会では苦しそうに走るランナーを見ると、自然に拍手を送ったり、「ファイト!」と声を掛けたりするようになりました。結果ではなく、挑戦している姿そのものを応援したいと思うようになったのです。

これはスポーツだけの話ではありません。

仕事でも、社員同士が支え合い、取引先との信頼を育み、お客様が会社を応援してくださる。その積み重ねが、人を育て、会社を成



長させ、業界を支える力になっているのではないのでしょうか。

娘は今回の大会のことを覚えていないかもしれませんが、これからの人生で、誰かを応援し、また誰かに応援される経験をたくさん重ねてほしいと思います。

応援された人が、今度は誰かを応援する、そんな「応援の輪」が少しずつ広がっていくことが、スポーツの魅力であり、仕事や地域社会を支える力にもつながっていくのだと思います。

私自身も、これまで多くの方々からいただいた応援への感謝を忘れず、その応援を今度は誰かにつないでいける人でありたいと思っています。

組合の会議から

◇六月

二 日

福利厚生委員会

午後六時 (東鉾会館)

八 日

広報委員会

午後六時 (東鉾会館)

九 日

流通経営委員会

午後六時 (東鉾会館)

二 三 日

総務委員会

午後六時 (東鉾会館)

◇七月

一〇日

理事会

午後六時 (東鉾会館)

二 九 日

総務委員会 (納涼会)

午後六時 (新橋亭)

◇八月

二 五 日

規格委員会 (納涼会)

午後六時三〇分

二 八 日

総務委員会

(浅草屋形船 船宿あみ清)
午後六時 (東鉾会館)

訃報

城南支部 株式会社三稜商会

代表取締役 色川幸一郎様 御尊父 色川幸三郎様

四月九日に逝去されました

謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

港支部 矢辺鋼業株式会社

代表取締役 渡邊豪様 御尊父 渡邊昇様 (組合顧問)

五月一八日に逝去されました

謹んで哀悼の意を表しご報告いたします

◇東鉾ゴルフ会報告◇

本年度第2回 (通算第168回) のコンペが5月26日に行われました。成績は左記のとおりです。

第168回成績 京葉カントリー倶楽部	
順 位	氏 名
優 勝	浦田秀明
二 位	洞下泰成
三 位	石川隆一
四 位	馬場由喜
五 位	佐野初宏
六 位	中村勝士
七 位	深澤一男

表紙のことば

外装色は日光東照宮陽明門の胡粉の白色、鹿沼市の伝統工芸、鹿沼組子をイメージした六角形の窓枠から列車愛称『X』との事…ホワイトXで良いのでは?と思っていました。

墨田支部 マハナネジ株式会社 真 嶼 耕 治